



環境省

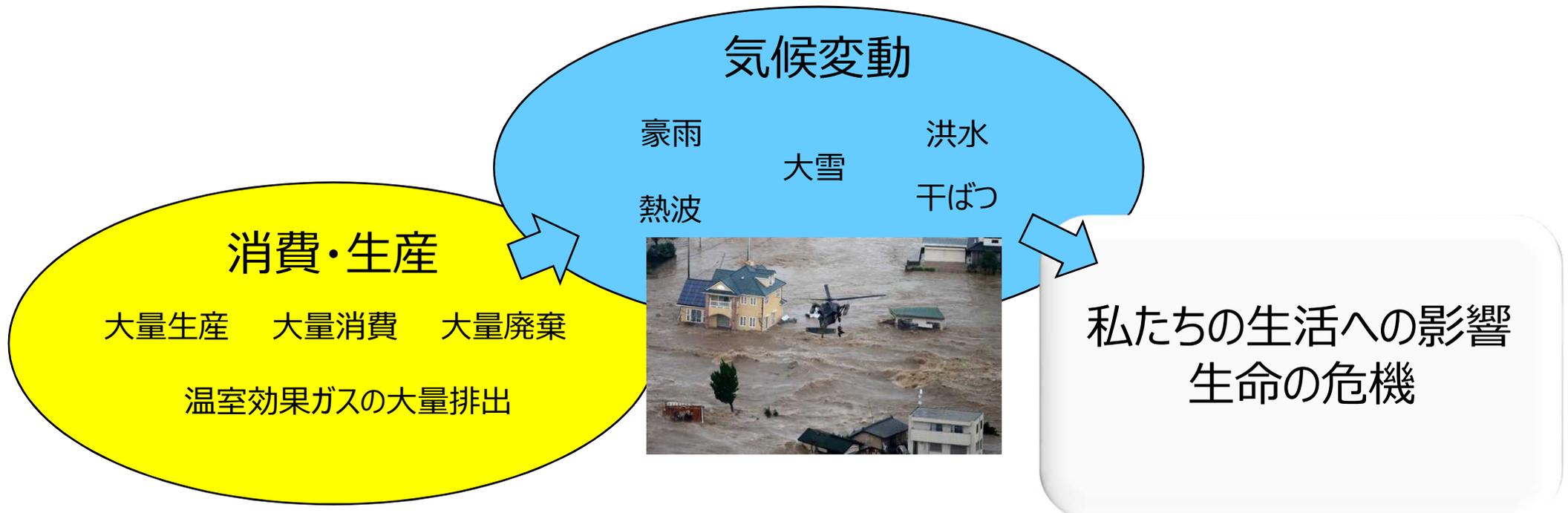
第1回 グリーン購入と環境配慮契約とは

令和3年3月
環境省 大臣官房 環境経済課

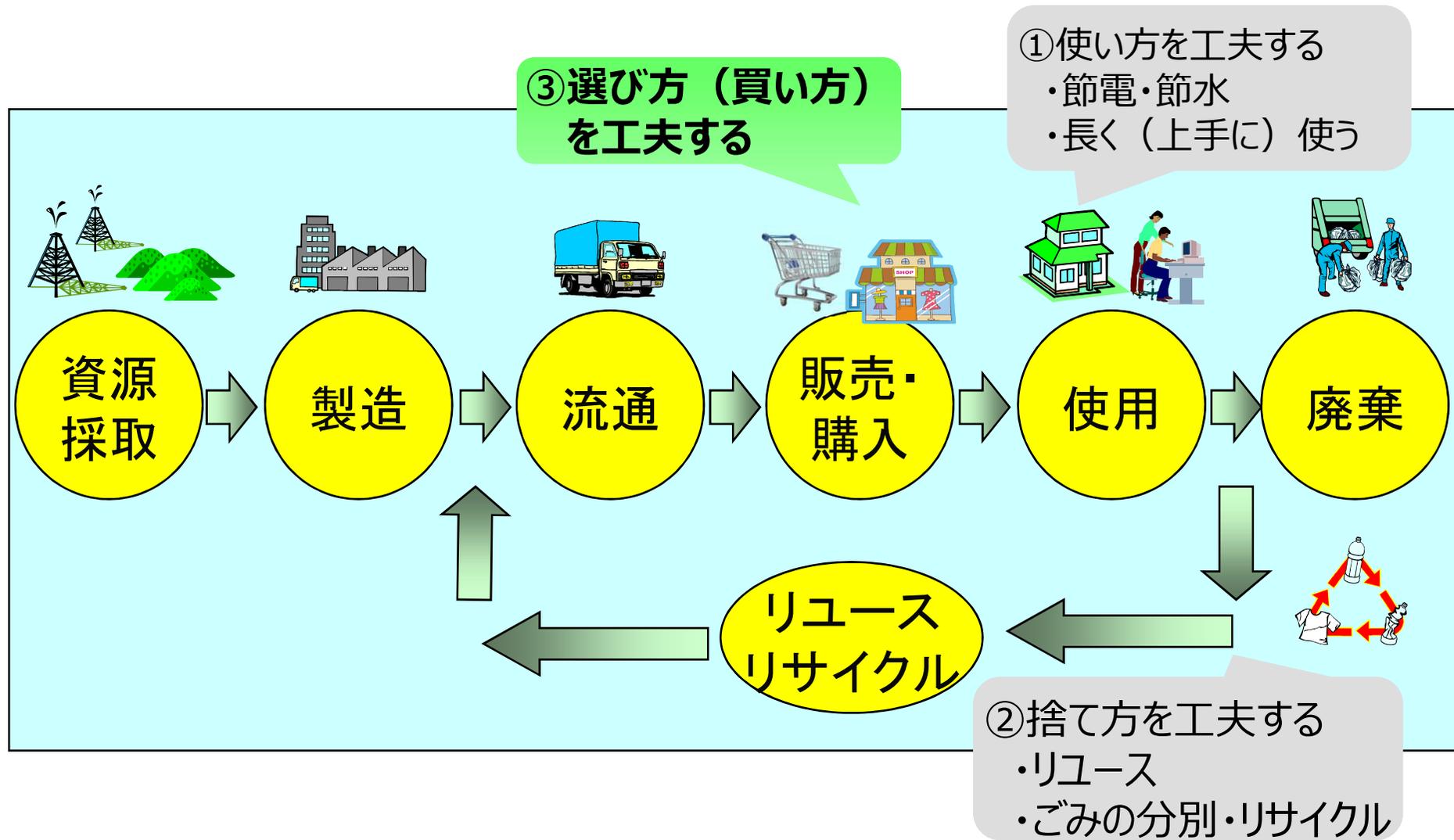


■ 環境問題と消費・生産

- 昨今の気候危機は、その原因が大量生産、大量消費、大量廃棄を前提とした現在の生産と消費の経済社会構造に根ざしているといわれている。
- 経済社会のあり方そのものを環境負荷の少ない持続可能なものにすることが解決には不可欠。



①使い方の工夫や②捨てる方の工夫により、ものを大切に使い、エネルギー消費量やごみの量等を減らすことができる。そして、③選び方（買い方）を工夫することによって、さらに環境への負荷を減らすことができる。



■ グリーン購入（広義）とは

- 製品やサービスを購入する際に、①まず必要性をよく考え、②必要な場合に限り環境への負荷ができるだけ少ないものを選んで購入し、③購入した製品やサービスは無駄なく大事に使い、④使用後も適切に廃棄（リユース・リサイクルを含む）すること。



■ 広義のグリーン購入の実践手法

- 広義のグリーン購入を行政が調達者として推進していくために、2つの手法がある。
- 一定の基準を定め、その基準を満たしているものを調達する「**狭義のグリーン購入**」
- 価格のほか環境負荷低減が図られていることを評価することや環境負荷低減に取り組んでいる事業者の中から契約する「**環境配慮契約**」

グリーン購入（広義）

グリーン購入（狭義）

環境配慮契約

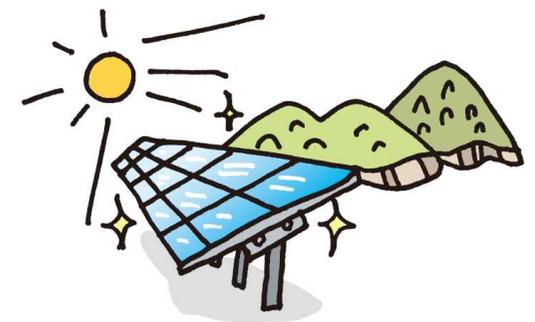
※以下、「グリーン購入」という場合は、狭義のグリーン購入を指します。

■ グリーン購入とは

- 製品・サービス自体の環境性能について、一定の水準を規定し、その水準以上の製品・サービスを調達すること。
- グリーン購入を実践することにより、環境性能に配慮した製品・サービスが市場に供給され、環境負荷の少ない持続可能な社会の構築につながる。

■ 環境配慮契約とは

- 物品やサービスの調達契約を結ぶ場合に、価格だけでなく環境性能の高低を含めて評価して判断（契約）すること。
- 環境配慮契約を実践することにより、温室効果ガス等の排出削減につながる。



グリーン購入と環境配慮契約の違い

	グリーン購入	環境配慮契約
性格	<u>製品・サービス自体の環境性能</u> を規定	購入時における <u>入札・契約の方式等</u> を規定
趣旨	<u>一定水準の環境性能</u> を満たす製品・サービスの調達	価格等を含めた <u>総合的評価</u> による最善の環境性能を有する物品・サービスの調達

- 消費生活など購入者自身の活動による環境負荷低減効果のほか、供給側の企業に環境負荷の少ない製品の開発を促し、経済活動全体を変えていく可能性を持っている。

- 私たちが普段消費する多くの製品は、その材料の多くを海外に依存している。そして、私たちの豊かな生活を支えるために、たくさんの資源を運び、加工し、商品として販売する中で多くのエネルギーを消費し、温室効果ガスを排出している。
- SDGsが目指す持続可能な社会を構築する手段として、グリーン購入や環境配慮契約の有効性が再認識されている。それは、環境負荷の少ない製品・サービスの開発を促進するためには、調達者がグリーン購入や環境配慮契約を進めることが不可欠で、もっとも効果的だからである。
- グリーン購入や環境配慮契約は、基準を満たした物品や環境ラベル商品等を購入するだけでなく、それらを購入したり契約したりすることにより、環境負荷削減やSDGsの目標達成につながる取組である。



環境省